

織おり

ぎふし男女共同参画情報紙

2014

vol.11

女糸と男糸がつむぐ社会

—いごこちのよい人間模様の布を織るために—

特集 座談会

いまどきの

大学生のホンネ



メンバー紹介

■岐阜大学の学生 ①希望する職業・内定先 ②家族へのメッセージ

入江 朱美さん（地域科学部3年）

- ①営業・販売など
- ②私がやってみたいと思うことに対していつも応援してくれる、そんな家族に感謝の気持ちで一杯です。いつもありがとうございます。

小橋 愛実さん（教育学部家政教育4年）

- ①教員
- ②岐阜県で教員として働く事を認めて、更に応援してくれてありがとうございます。

北井 亮佑さん（応用生物科学部3年）

- ①公務員
- ②岐阜でも楽しくやっています。

馬渡 健司さん（工学部数理デザイン工学科4年）

- ①銀行員
- ②これからは“支える側”に成長していきます。



鈴木 彩日さん（地域科学部4年）

- ①製紙業
- ②今までありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いします。

■アドバイザー

岐阜大学 男女共同参画推進室

特任助教（家族社会学）

松井 真一先生



■編集委員 加藤 ゆり子さん 廣瀬 理恵さん 伏見 聰子さん 墨 みづほさん 宮本ちさとさん

～平成25年度チャレンジ支援セミナーを修了した市民編集委員が企画編集しました～



ハートフルスクエア G 岐阜市女性センター（指定管理者：公益財団法人 岐阜市教育文化振興事業団）

●座談会●

特集

いまだきの

大学生のホンネ

Q1 10年後の自分はどうなっていたい?

北井: 仕事に慣れ、幅が増え楽しいと思っていたい。結婚して子どもが2人欲しい。

馬渡: 親を安心させたい。自分で全てを貢献したいし、働く目的を見つけていきたい。結婚し子どもが2、3人欲しい。

入江: 結婚して子どもを産んでいたい。出産後、仕事をしているら、子どもがある程度大きくなるまでは早めに帰宅したい。

鈴木: 結婚して子どもが欲しい。家庭の事をするのが自分の仕事。元気な主婦でいたい。

小橋: 結婚して家庭を持ちたい。子どもがたくさん欲しいし、やりがいのある仕事をしたい。

先生: 岐大の女子学生には、子どもを産んだら仕事を辞め、落ち着いたらまたパートなどで働く意識の学生が多い。

Q2 結婚について

小橋: 家事、育児をひとりではなく、夫と一緒にやりたい。一緒に出来る夫を育てていきたい。

鈴木: 子どもは夫婦で育てるものだと思う。協力して家庭を築きたい。父は自分の好きなものに付き合ってくれた。

入江: 家事と育児を両立させたい。夫婦共同でしたい。だけど、夫の仕事の大変さが分かること遠慮してしまう。父は家事をしなかったが一緒に遊んでくれた。

馬渡: 子どもが好き。なぜ、男性が家事、育児に参加しないのか不思議。自分は母親との関わりが多かったから、子どもと積極的に関わる。

北井: 子どもが大好き。母親の方に色々言いやすかった。育児に参加して子どもの成長を見たい。

Q3 職業観・女性の社会進出について

…女性の管理職の下でも働いていい? 管理職になりたい?

馬渡: 女性管理職について抵抗はない。アルバイト先で女性の先輩に育ててもらった。

北井: 女性も男性も関係ない。能力が認められ管理職になっている人は、その人の性格や人間性の方が問題。

入江: できるところまでは頑張りたいが、精神的な負担が大きく家庭に影響がでることを考えると難しい。

鈴木: 管理職になった方が自分の意思で仕事ができると聞いたので働きやすいと思うが、できれば家庭を優先したい。

小橋: 私はいつまでも教育現場で子どもと接してみたい。女性の校長は女性ならではの目線での気づきがあり、優しさ・ほがらかというイメージがありいいと思う。

先生: ホンネはどうなの?(笑) 現実には育児期に仕事を一度辞める女性が多いわけだけど、女性は何年か働いて、これからという時にこれまでのキャリアを捨てて仕事を辞められる? 男性は辞めてくれと言う?



男性: 辞めてくれとは言えないです。

馬渡: イクメン*カジダン*が理想ですね。ホンネを言うと育児は女性がやることが前提で、自分はサポートする立場というイ

メージ: 逆に自分が本当に子育てをすべてやってもいいのかなどとも思う。

先生: 男女の収入が一緒であれば、男性は主夫、女性が働くという役割交換はできる?

馬渡: 子どもが小さい時は、男性が入り込む部分は少ないと思うし、女性が中心に家事・育児をやるのかな。積極的に育児に参加したいと思うが、自分がいざその立場になったときにできるのかなと思う。

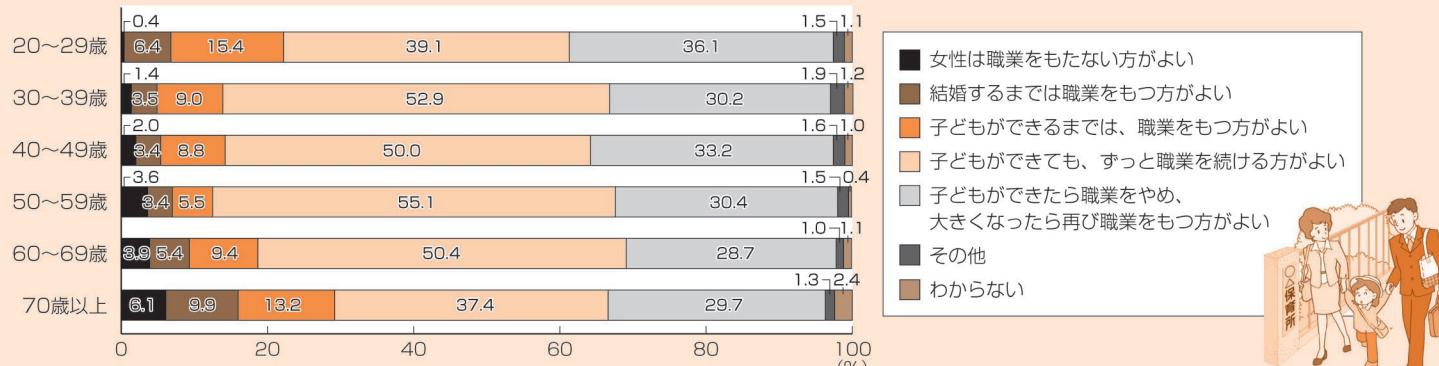
入江: これから就職活動をするが、全国転勤の可能性があるところは選びにくい。結婚を考えた時も距離が離れると難しいと思う。自分の中で家事、子育ては女性と根付いている。

鈴木: 私も子どもは産まれてすぐは母親がそばにいた方がいいと思う。その後は夫婦の間の話し合いで、具体的なことは分からないが、相手と相談してどちらが家庭の中心になるのかを決められると思う。

小橋: 自分だったら、「俺について来い!」と言ってほしい。言われたらついていくと言いたい。(笑)

*イクメン: 育児を楽しむ男性 *カジダン: 家事に積極的な男性

女性が職業をもつことについての考え方(2012年調査)



編集委員の廣瀬さんが司会進行し、5人の大学生に結婚や職業観などホンネを語っていただきました。また、アドバイザーの松井先生に率直な意見をいただき、とても盛り上りました。



Q4 安定している社会とは?

今現在、安定している社会はどんな社会と言えますか?

北井: 日本は豊かな国のわりに自殺をする人が多いと思うし、幸せを感じていない人が多いという統計がある。皆が幸せを感じる社会が安定している社会だと思う。就活苦で自殺する学生もいるので、就職しやすい社会にすることも重要。

馬渡: 幸福度が高い社会がいい。就職しないとダメとか壁が高いので、その壁を少し低くすることをメディア等が呼びかけていくことも必要。でもまず立ち向かっていける考え方を身に着けることが大切だと思う。子どもの頃の教育が大切だと思う。壁から逃げ出さないようにには、自分に自信を持つことが大切。

入江: 立場が弱い人のことに関心がある。アベノミクスで企業を支援するというが、生活保護費は下げられている。自分が病気になったことを考えると制度・保障がないと頑張るにも頑張れない。いろいろな立場に合わせて仕組みを作ってほしい。企業説明会に行っても企業はいいことしか言わない。ブラック企業だったらどうしようと思う。



鈴木: 「安定している」は好きではない。誰かに助けを求めることができる社会、家族だけでなく近隣の人や親戚の人と助け合い、気軽に相談できるところがあるといい。つながりあえる社会がいい。どんなセーフティネットを利用できるのか視野を広くもって個人でも考えていく必要がある。

小橋: 子どもの虐待・子どもも同士のトラブル等のニュースを見る悲しい。子どもが自信を持てたらいいなと思う。家庭が幸せではない子もいるので察知して子どもに寄り添いサポートしていきたい。

先生: 安定というと難しいが「安心して暮らせる社会」というと具体的なイメージが湧くと思う。現在は、一度一般的な道からドロップアウトすると経済的に不安定になる。働き方によらず継続的に安心して働く社会がいいと思う。そのためには、その時に合わせてフルタイム、パートタイムといった働き方を変えられて、なおかつどちらを選択してもその後の人生に「ペナルティ」のない労働環境が必要だ。また子育ては夫婦のみで行うではなく、もっと「助けて」という声を上げて周りを頼ってもいい。当事者の働きかけによって現状を変えることができるんだという気持ちを持って社会に出ていってほしい。

松井先生の総評

子育てを協力して行いたいと答えるなど現代の若者らしい意見が出ていたと思います。一方で、子どもの関わり方と関係しながら、本音のところでは主に女性が子育てを担う方がよいという考え方も見受けられ、現在でも男女の役割意識は「子どものため」という形で若者の間に浸透していることが印象的でした。座談会ではあえて男女の役割交換の話を出したましたが、これからの時代を担う学生の皆さんには「交換」ではなく「協働」できる社会のあり方について考えてもらえたと思います。

編集委員の感想

●廣瀬さん

男だから女だからというよりも「自分らしさ」を大切にした考えを聞くことができました。理想と現実は違うが、子育てと仕事の両立は、家族や周囲の協力がなければ難しい。誰もが安心して暮らせる社会の仕組みも必要だと思います。

●加藤さん

今どきの大学生はあまり良いイメージありませんでしたが、良い学生さんばかり驚きました。優しいココロを持っているのは、育った環境で大きく左右されるのだと感じ、子を持つ親として社会にでも恥ずかしくない子に育てたいと思いました。今度は、この学生さんたちの親さんとの座談会をしてみたいです。

●伏見さん

未婚化・少子化が進んでいる中、5人全員が結婚、出産を考えていることに驚き、岐阜の未来は明るいかな?! と感じました。男女共同参画が進み多様性を尊重し、男女ともあらゆる分野で活躍できる社会になればいいと思いました。貴重な体験ができ、とても楽しかったです。

●墨さん

学生さんが仕うことだけではなく、結婚・子育てに関しても積極的に考えていることが印象的でした。皆さんと話すことで安心して暮らせる社会について、私たちにもまだまだ出来ることがあると思いました。ご活躍を応援しています。



岐阜市女性センター所長
寺松 みどり

私どもの施設では、毎年夏、様々な大学からインターンシップとして学生を受け入れています。その延長線として、編集委員と試行錯誤して考えた「特集」のキーワードは「若者の気持ち」で、大変有意義な座談会を開くことができました。

「男女共同参画社会の実現」は21世紀の最重要課題です。まさに学生たちが主役の時代です。“男女がともに輝いて生きられる社会”を築いていってください。

チャレンジ支援セミナー「私たち輝くために！」の受講者の方に

追跡調査をしました!!

**Q.セミナー後、
一步踏み出せましたか?**

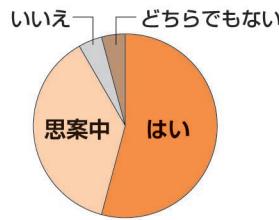
「はい」54%(13人)



- ・自分の持っている技術を更に向上させる事で自分に自信が持てるで勉強している。
- ・趣味を活かし少しでも多くの人に喜んでもらえることをしたいと一步ずつ前を向いて進んでいる。
- ・ハローワークに行き就活中です。(2人)
- ・自主音楽コンサートを開催した。今後は幅を広げようと考えている。
- ・ご縁があって講座を開くことができた。いつもは聴く側だったが、今回伝える側になり難しさを感じた。良い経験だった。
- ・会社の代表としての迷いが吹っ切れ自分に自信を持ちお客様の為にすべき事を頑張っている。一番大切な事を学んだ。

「いいえ」4%(1人)

- ・まだ実際には動けていないが、子どもが4月から幼稚園に入るので春になったらセミナーの内容を参考に動き出したい。



「思案中」38%(9人)

- ・何か資格を取りたい。もっと現実的に今を活かせるモノ。自分に何が合うか選択する一歩になりヒントが得られたという状況。
- ・子育てサークル等にてクリスマス会の企画運営中で、ここで自分らしく関わるよう積極的に行行動している。
- ・夢をカタチにする方法を具体的に考えている。必ず実現したい。
- ・第2の職業を得ようと心理学のセミナーに通って勉強している。
- ・一步を踏み出す勇気とパワーがまだなく動けずにいるが、自分の今までの生き方と今後を考えるとても良い機会になった。



「どちらでもない」4%(1人)

- ・目に見えるような結果には何もつながらなかったけれど気持ちの持ち方で少し前向きになれた。

INFORMATION

岐阜市女性センター (ハートフルスクエアーグラウンドフロア)



男女共同参画社会の実現を目指すための拠点施設です。JR岐阜駅東高架下にあり、交通の便の良いところなので、男女ともお気軽に立ち寄りください。



●開館時間：午前9時～午後9時

●休館日：毎月最終火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)
年末年始(12/29～1/3)

学びたい 『みんなで楽しい講座のひとときを…』

男女共同参画についての理解を深め、新しい自分の世界に踏み出すための講座等を開催します。



チャレンジ支援セミナー、男女共同参画週間記念講演会、ワーフ・ライフ・バランス講座、ぎふし男女共同参画こらば講座、子育て支援講演会 等

●講座中の無料託児もあります。(申し込み時要予約)



困った 『ひとりで悩まないで…』

電話相談(一般) **0120-786874** (ナヤムハナシ)

受付日時：月曜～土曜 午前10時～12時、午後1時～4時
(ただし祝日・休館日・年末年始・イベント開催日などを除く)

面接相談(専門) **要予約:女性センター**
TEL(058)268-1052

無料 秘密厳守

法律(弁護士)・心(相談員)・健康(助産師・看護師)
家計(1級ファイナンシャル・プランニング技能士(CFP))
※詳しくは広報ぎふまたはホームページにてご確認ください。

交流したい 『新しい生き方を探して…』

男女共同参画社会の実現に向けて活動する市民団体で例会(ハートフルネットぎふ)を開催し、交流を深めています。また、おしゃべりサロンも年2回開催します。

知りたい 『最新情報の発信を…』

「ぎふし男女共同参画情報紙『織』」「女性センターだより」等を発行。「子育て情報コーナー」「岐阜労働局雇用均等室コーナー」を常設。「ホームページ」の更新、「図書」「DVD」の貸出。

■編集・発行

岐阜市女性センター

指定管理者:(公財)岐阜市教育文化振興事業団

〒500-8521 岐阜市橋本町1-10-23 ハートフルスクエアーグラウンドフロア内

TEL(058)268-1052 FAX(058)268-1057 E-mail:josei-c@ccn.aitai.ne.jp

ホームページアドレス：http://www.ip.mirai.ne.jp/~hertful/joseic_top